

第3章 アンケート調査結果及びワークショップ結果

1. 健康づくり／食生活・生活習慣に関するアンケート調査の結果

(1) 調査概要

① 調査方法

本調査は、市民の健康増進に向けた取り組みを効果的に進めていくにあたり、「合志市第2次健康増進計画・食育推進計画」策定の基礎資料とするため、普段の生活習慣や健康状態等を把握することを目的に、成人及び小中学生を対象にアンケート調査を実施しました。

図表 54 健康づくり／食生活・生活習慣に関するアンケート調査概要

	健康づくりアンケート (成人対象)	食生活・生活習慣に関する アンケート (小学5年生・中学2年生対象)
調査対象	合志市在住の20代以上を対象に、地区別の年代別人口比率に併せて対象者数の割り付けを行い、無作為抽出にて対象者を選定して配布（対象数1,040件）	合志市内の小学5年生（817名）、中学2年生（704名）全員を対象として配布
実施期間	令和2年8月26日～9月14日	令和2年7月13日～7月22日
調査方法	無記名式アンケート調査票を用いて郵送で実施 (ただし、回答方法は紙またはweb形式を個人が選択して実施)	無記名式アンケート調査票を用いて、各学校経由で直接配布・回収する方法で実施
調査内容	運動・食事等の生活習慣の状況及び健（検）診受診状況（51項目） ※設問項目の一部は、成人・子ども（小中学生）共通の調査項目あり	運動・食事等の生活習慣に関する状況（22項目） ※設問項目の一部は、成人・子ども（小中学生）共通の調査項目あり

② 回答者の属性

<成人対象>

成人対象のアンケートの回答者数は343件（回収率33%）で、男性43.4%、女性55.4%の状況でした。また、343件のうち、Web回答者は59件でした。

図表 55 回答者の属性

	総数	男性	女性	無回答
回答数	343人	149人	190人	4人
回答者割合	100%	43.4%	55.4%	1.2%

	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	無回答
回答数	12人	49人	55人	59人	93人	64人	9人	2人
回答者割合	3.5%	14.3%	16.0%	17.2%	27.1%	18.7%	2.6%	0.6%

<子ども：小学5年生・中学2年生対象>

子ども対象のアンケートの回答者数は1,472件（回収率96.8%）で、男子48.6%、女子50.2%の状況でした。

図表 56 回答者の属性（小学5年生・中学2年生）

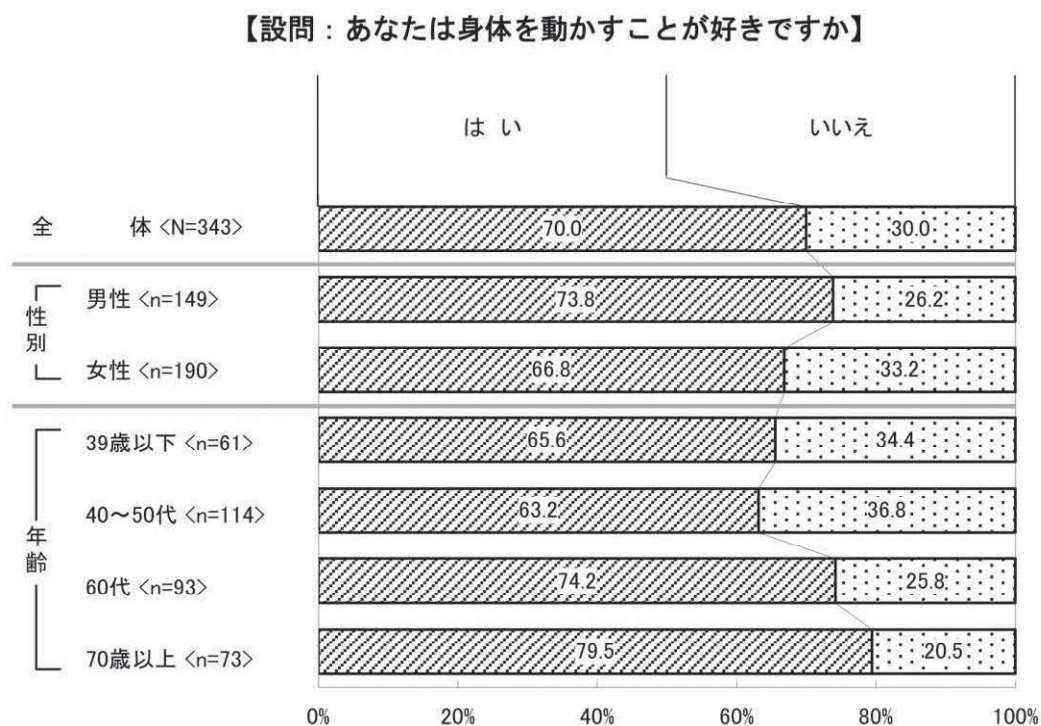
	総数	男子	女子	無回答
小学5年	798人	385人	405人	8人
中学2年	674人	330人	334人	10人
合計回答者数	1,472人	715人	739人	18人
回答者割合	100%	48.6%	50.2%	1.2%

（２） 調査結果

① 身体活動・運動に関する状況

■（成人調査）身体を動かすことが好きな人の割合は、約7割

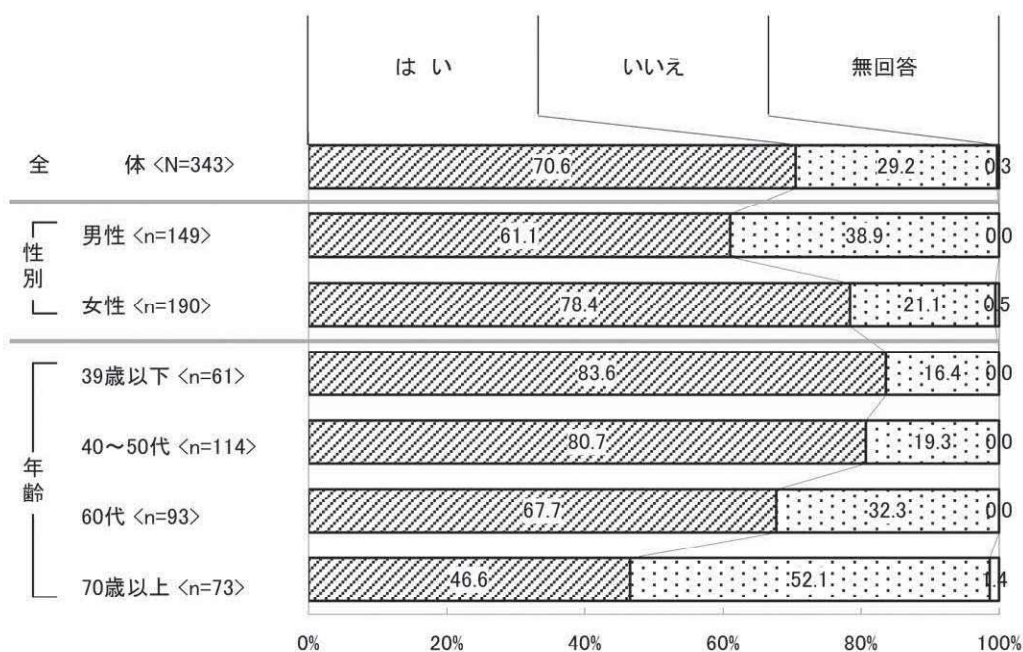
身体を動かすことが好きな人の割合は、全体で70.0%であり、性別で見ると男性73.8%、女性66.8%となっています。年代別で見ると年齢が上がるほど、その割合は増える傾向にあります。



■（成人調査）普段運動不足を感じている人の割合は、約7割

普段運動不足を感じている人の割合は、全体で70.6%であり、性別で見ると男性61.1%、女性78.4%となっています。年代別で見ると50代未満では、8割以上が運動不足を感じています。

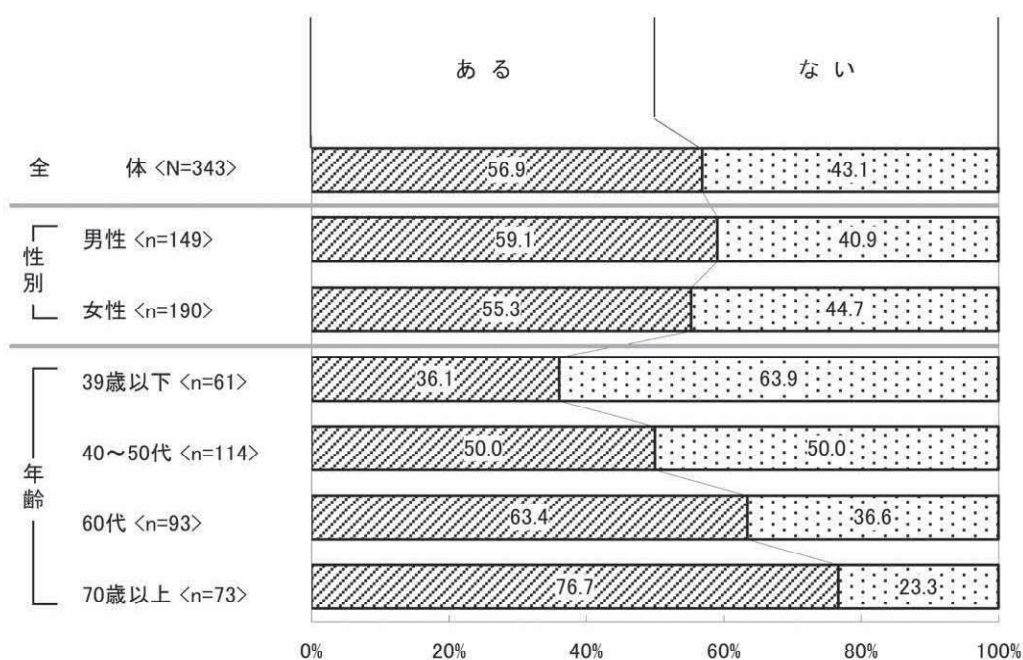
【設問：普段、運動不足を感じているか】



■（成人調査）運動する機会がある人は、6割弱

運動をすることがある人の割合は、全体で56.9%であり、性別で見ると男性59.1%、女性55.3%となっています。年代別で見ると39歳以下の世代が36.1%と最も低い結果でした。

【設問：運動することがありますか】

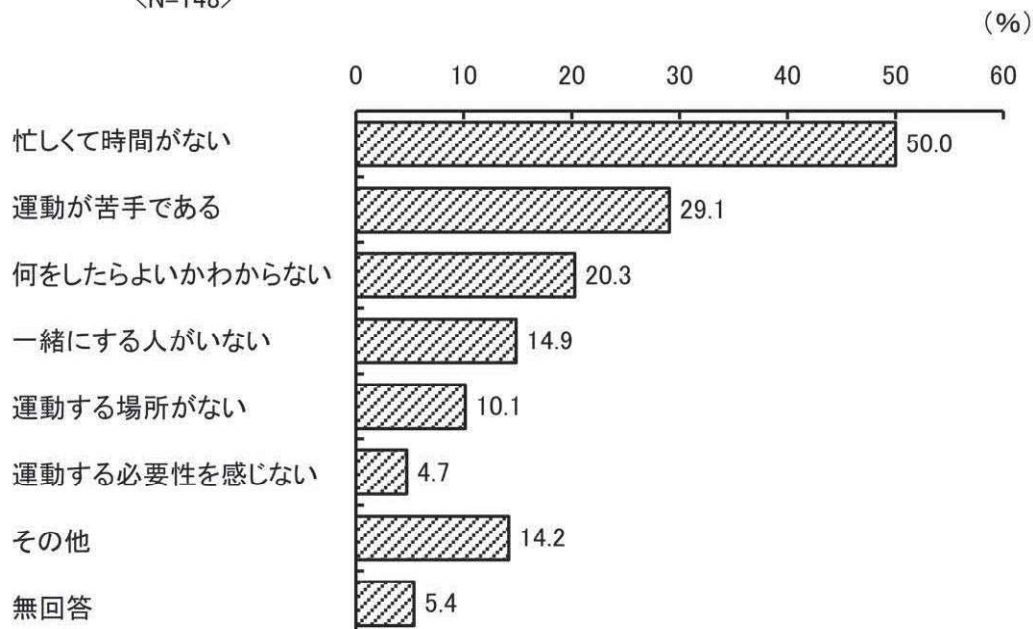


■（成人調査）運動しない、定期的にできない理由は、忙しくて時間がないが5割

運動しない、定期的にできない理由として多かったのは、「忙しくて時間がない」が50.0%で、続いて「運動が苦手である」が29.1%、「何をしたらよいかわからない」が20.3%でした。

【設問：運動しない、定期的にできない理由は何ですか】

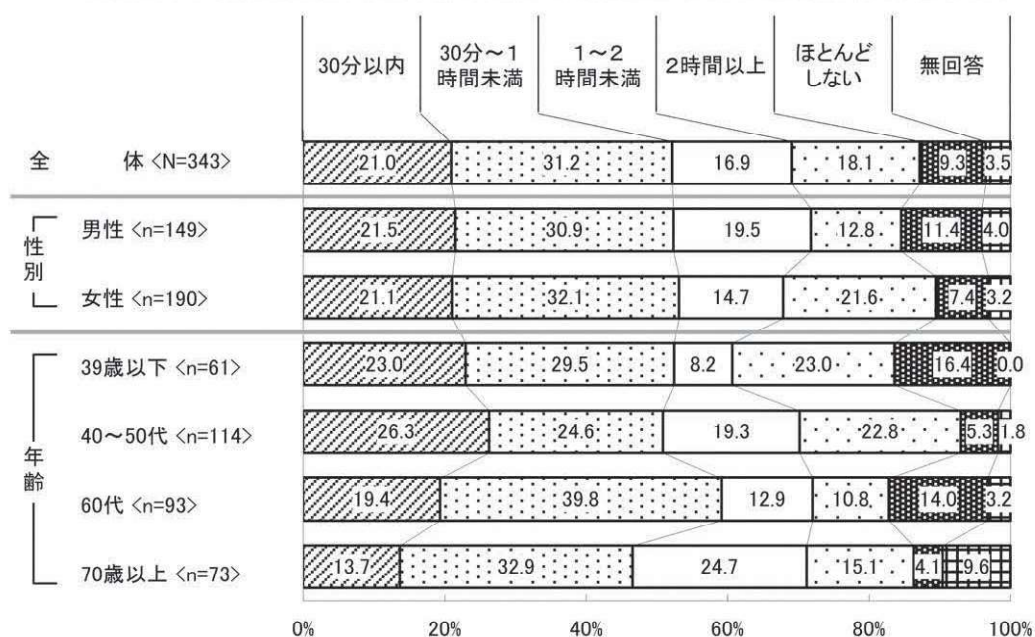
<N=148>



■（成人調査）日常の生活や運動で1日に歩く平均時間は、30分～1時間未満が約3割

日常の生活や運動で、平均して1日どのくらいの時間を歩いているのかを見ると、30分～1時間未満が31.2%、30分以内が21.0%で全体の半数を占めていました。

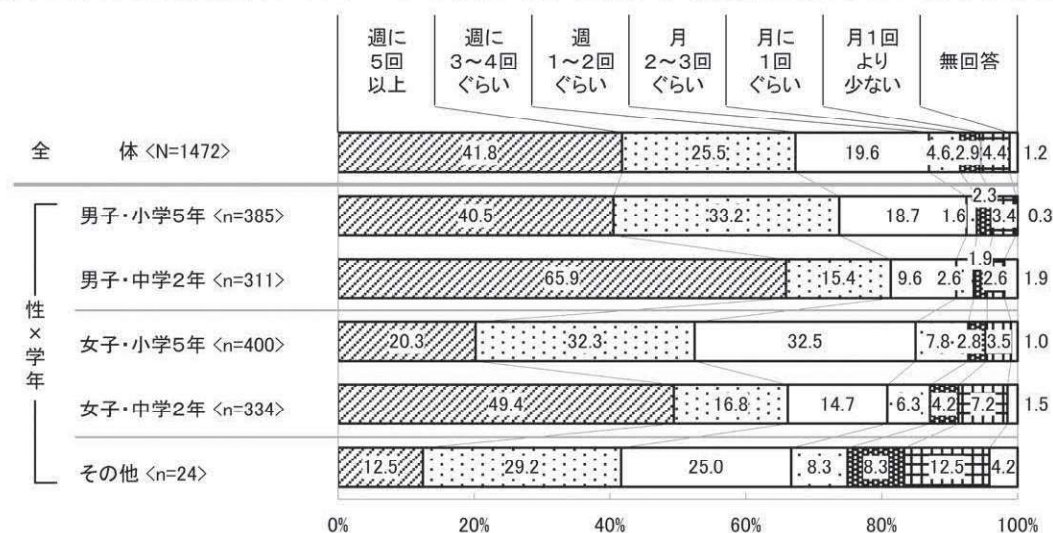
【設問：日常の生活や運動で平均して1日どのくらいの時間歩きますか】



■（子ども調査）体育の時間以外に、スポーツや遊びで体を動かす機会がある子どもは、約4割

体育の時間以外にスポーツや遊びで、週に5日以上体を動かす機会がある子どもは、全体で41.8%ですが、その中でも中学2年男子は65.9%と最も多く、反対に小学5年女子は20.3%と最も少ない結果でした。

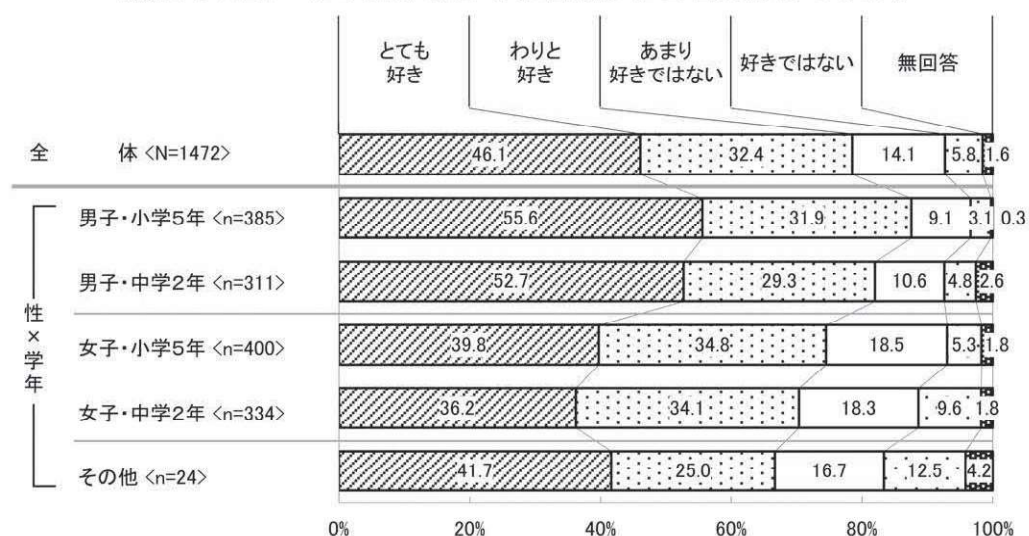
【設問：体育の時間以外にスポーツや遊びで体を動かす機会はどれくらいありますか】



■（子ども調査）スポーツや遊びなどで体を動かすことが好きと答えた子どもは、5割弱

スポーツや遊びなどで体を動かすのが「とても好き」な子どもは全体で46.1%でした。性別で見ると、小学5年と中学2年男子はどちらも50%を超えていますが、小学5年と中学2年の女子はどちらも40%未満でした。

【設問：スポーツや遊びなどで体を動かすことは好きですか】

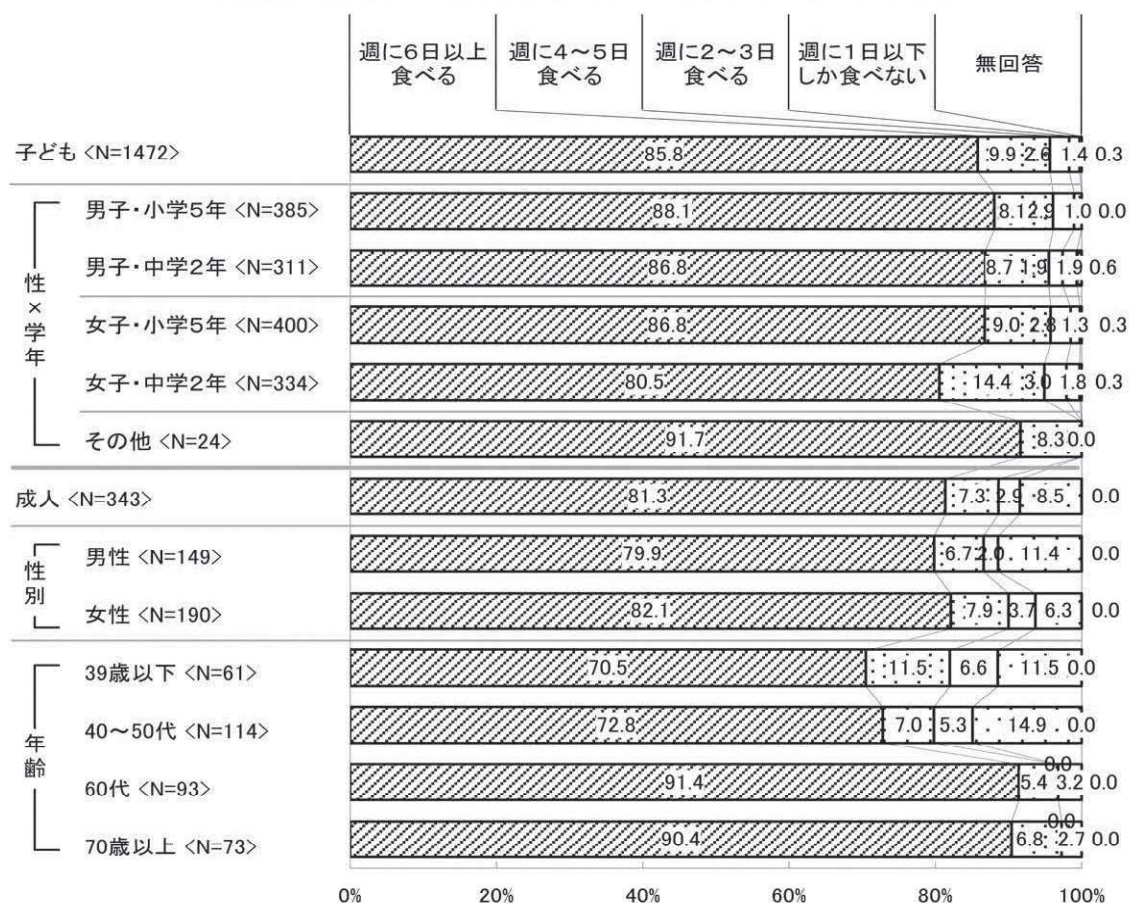


② 栄養・食生活に関する状況

■（子ども・成人調査）普段朝食を週6日以上食べている人の割合は、8割以上

朝食を週6日以上食べる人の割合は、子ども全体で85.8%、成人全体で81.3%であり、比較的高い割合でした。ただし、年代別で見ると39歳以下、40～50代、中学2年女子はそれぞれ全体の平均より少ない状況です。

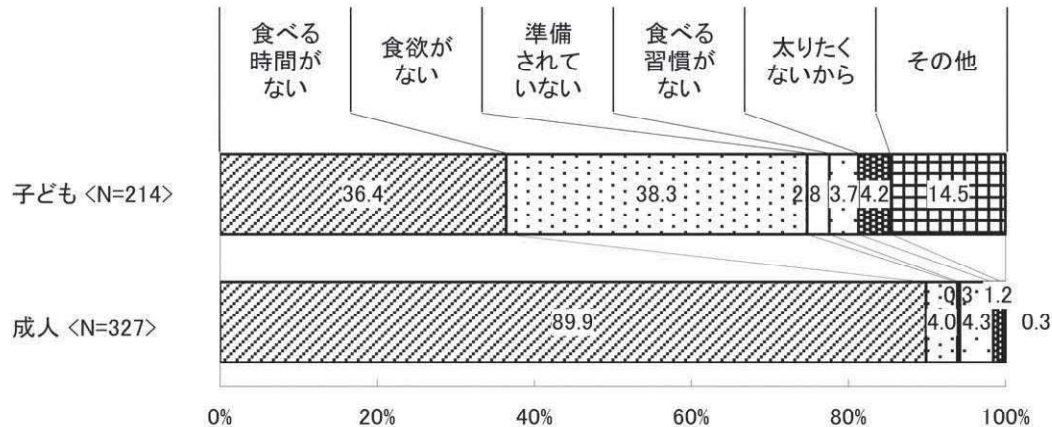
【設問：あなたは朝食を週にどのくらい食べていますか】



■（子ども・成人調査）朝食を食べない主な理由は、子どもは食欲がないが約4割、成人は食べる時間がないが約9割

子どもが朝食を食べないことがある主な理由は、「食欲がない」38.3%、「食べる時間がない」36.4%が上位の理由となっており、成人は、「食べる時間がない」89.9%という結果でした。

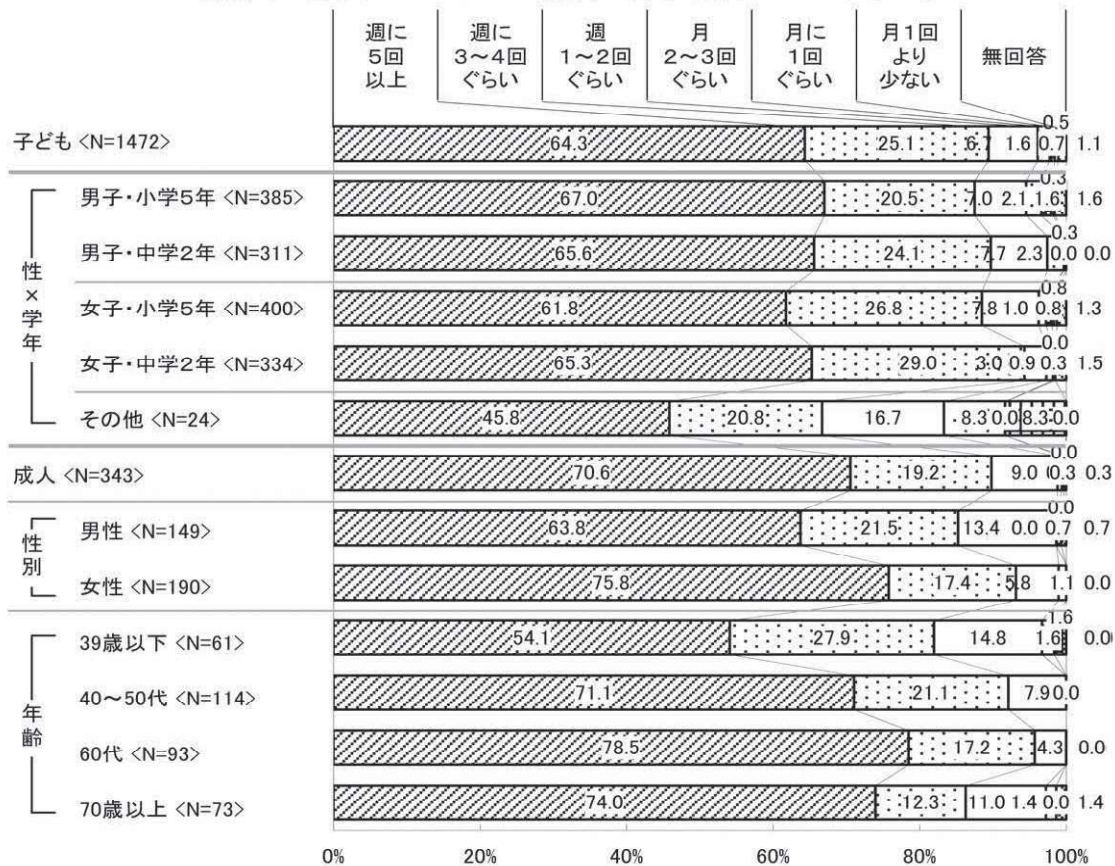
【設問：朝食を食べないことがある人の主な理由は何ですか】



■（子ども・成人調査）ほぼ毎日野菜を食べている人（週5回以上）は、成人が約7割、子どもが約6割

普段どのくらい野菜を食べているかをみると、週に5回以上食べている割合は子どもが64.3%で成人は70.6%でした。

【設問：普段どのくらいの頻度で野菜を食べていますか】

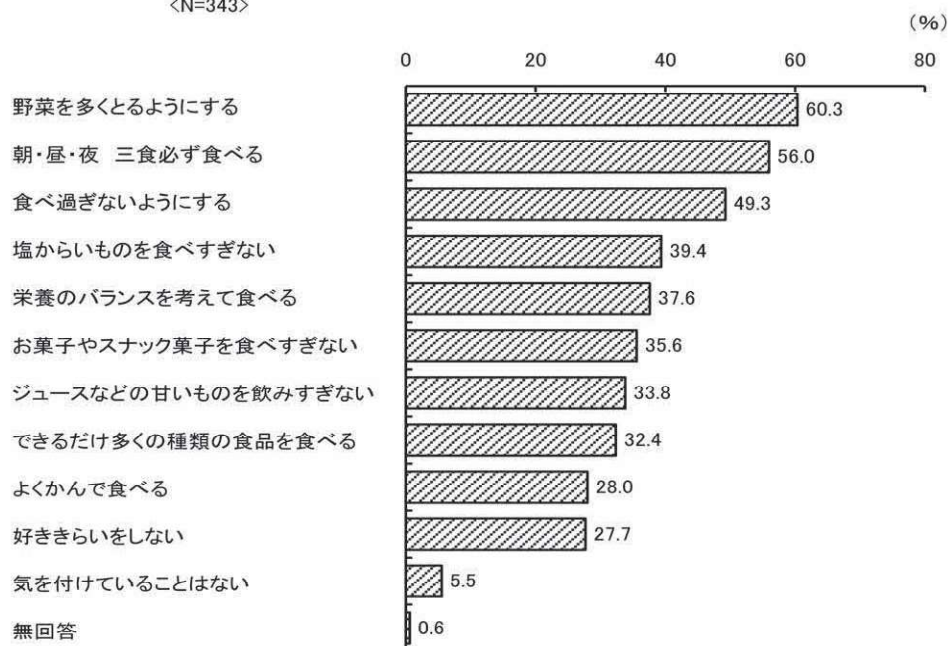


■（成人調査）いつもの食事で気をつけていることは、野菜摂取と三食必ず食べるが5割以上

いつもの食事で気をつけていることは、「野菜を多くとるようにする」「朝昼夜三食必ず食べる」が半数以上という結果でした。

【設問：いつもの食事で気を付けていることは何ですか（複数回答）】

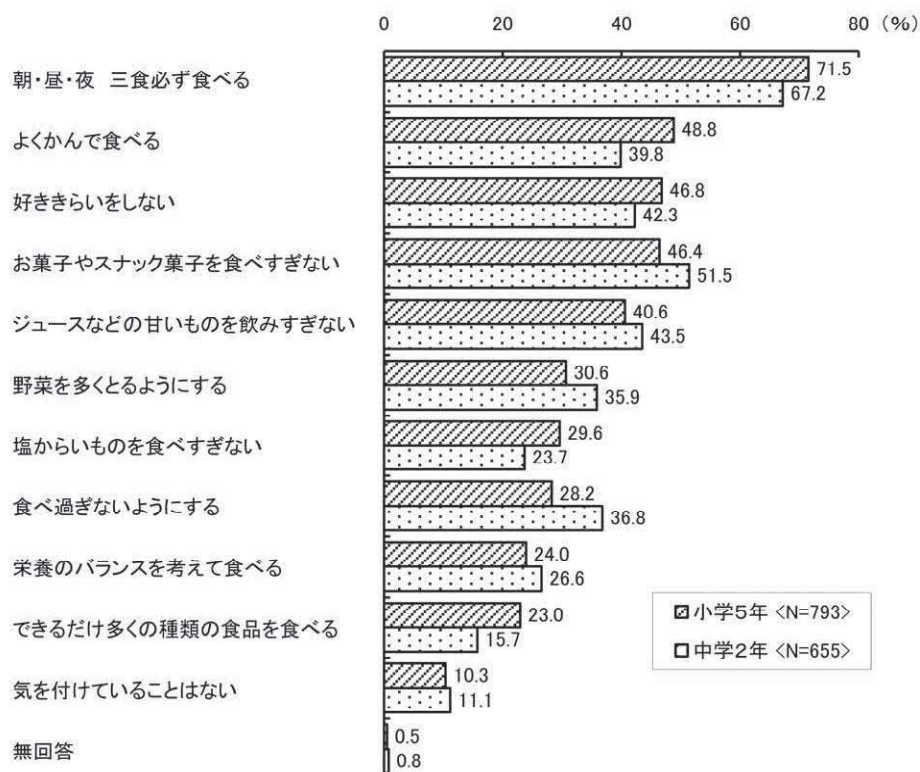
<N=343>



■（子ども調査）いつもの食事で気をつけていることは、3食必ず食べるが約7割

小中学生のいつもの食事で気をつけていることは、朝昼夜三食必ず食べることが約7割という結果でした。また、小学5年生と中学2年生の結果を比較すると、「お菓子やスナック菓子を食べすぎない」「ジュースなどの甘いものを飲みすぎない」「食べ過ぎないようにする」という体重増加に関連が深い項目に関し中学生の方がより意識している傾向が見られています。

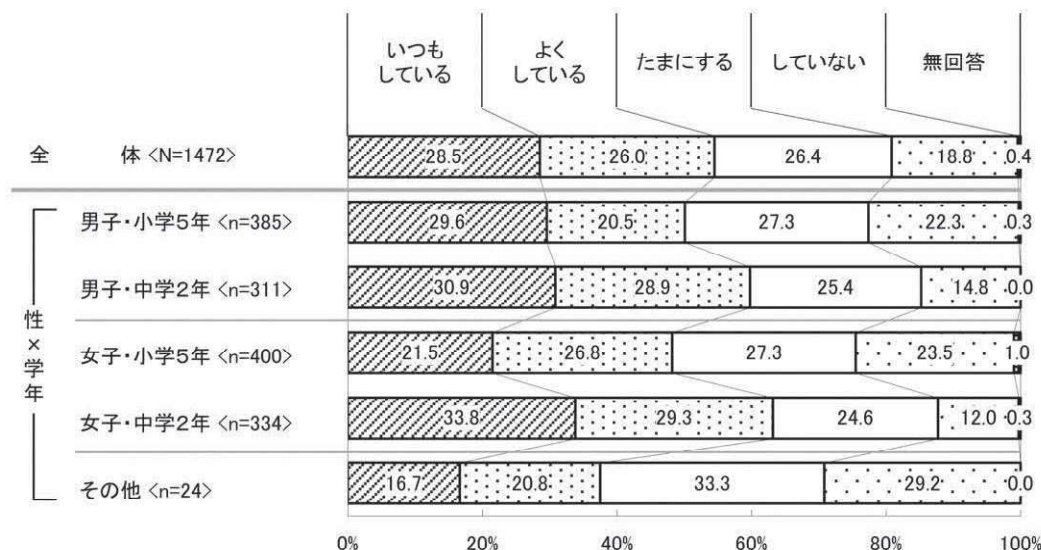
【設問：いつもの食事で気を付けていることは何ですか（複数回答）】



■（子ども調査）食事中に「ながら食べ」をしている子どもは、5割以上

テレビを見たり、ゲーム、メールをしながら食事をする「ながら食べ」について、「いつもしている」、「よくしてる」と回答した子は、54.5%と半数以上であり、中学生になると約6割を占める結果でした。

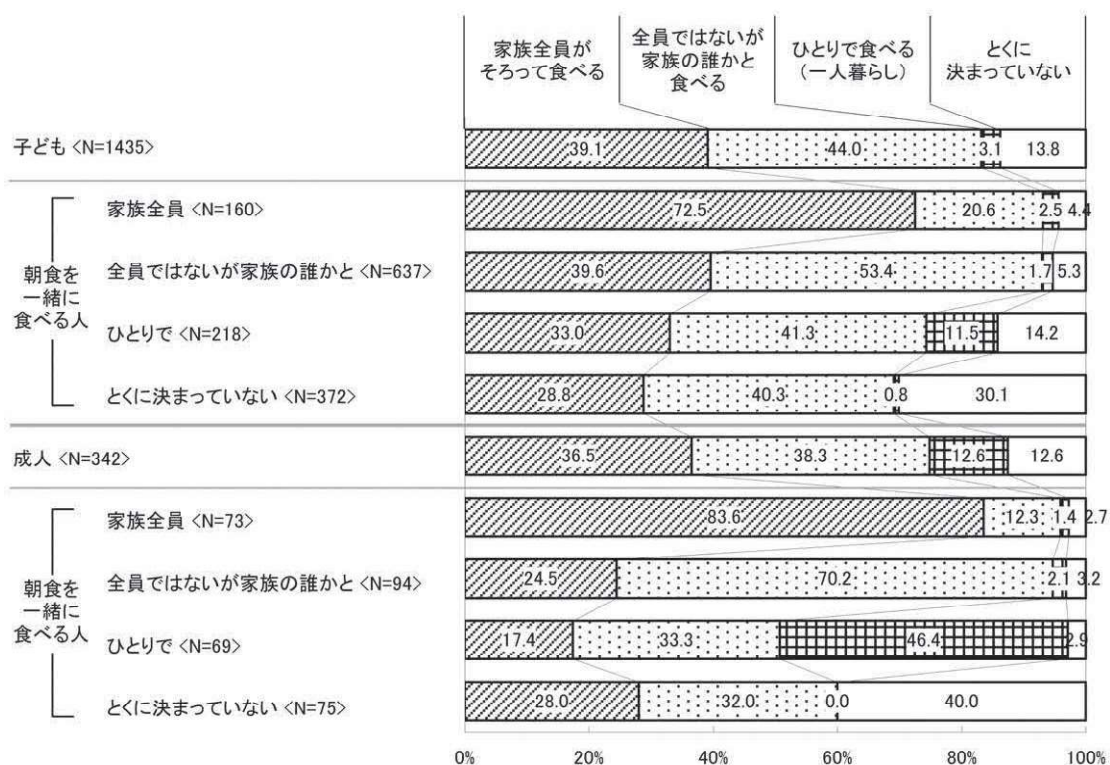
【設問：食事中に、テレビを見たり、ゲーム、メールをしながら「ながら食べ」をしますか】



■（子ども・成人調査）朝食も夕食も1人で食べている孤食の状況は、成人で5割弱、子どもで約1割

1人で食事をする孤食の状況を見ると、朝食も夕食も1人で食べるという人は、子どもは11.5%、成人は46.4%でした。

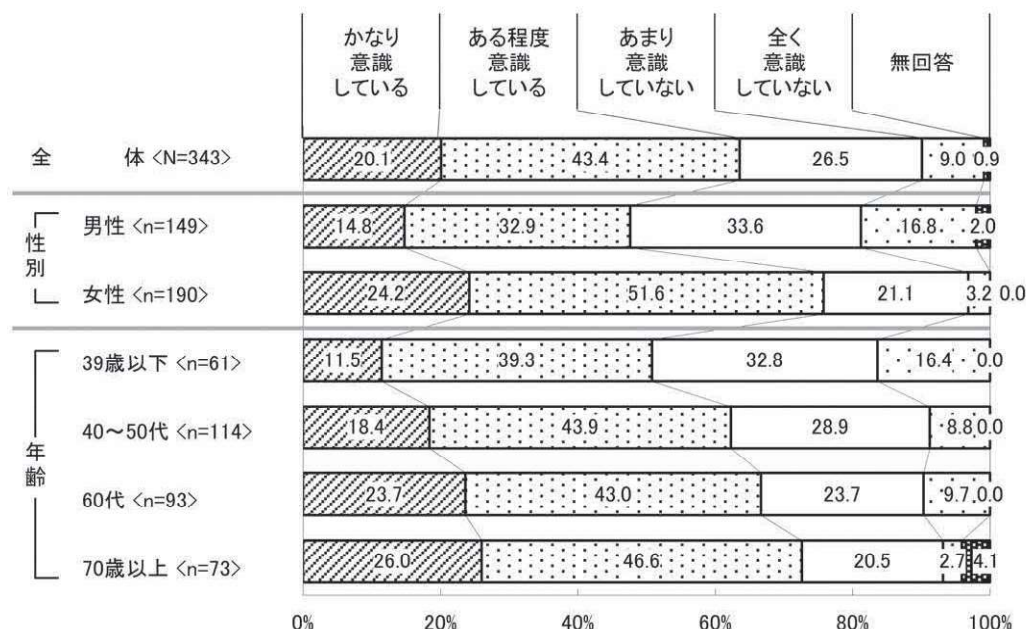
【設問：朝食を誰と食べていますか×夕食を誰と一緒に食べていますか】



■（成人調査）食材を購入する際に地産地消を意識している割合は、約 6 割

食材を購入する際に地産地消を意識している人の割合は、全体では「かなり意識している」「ある程度意識している」を合わせると 63.5%でした。性別で見ると、女性では「かなり意識している」「ある程度意識している」が 75.8%であり、また年代があがるほど、意識している割合が高くなる傾向があります。

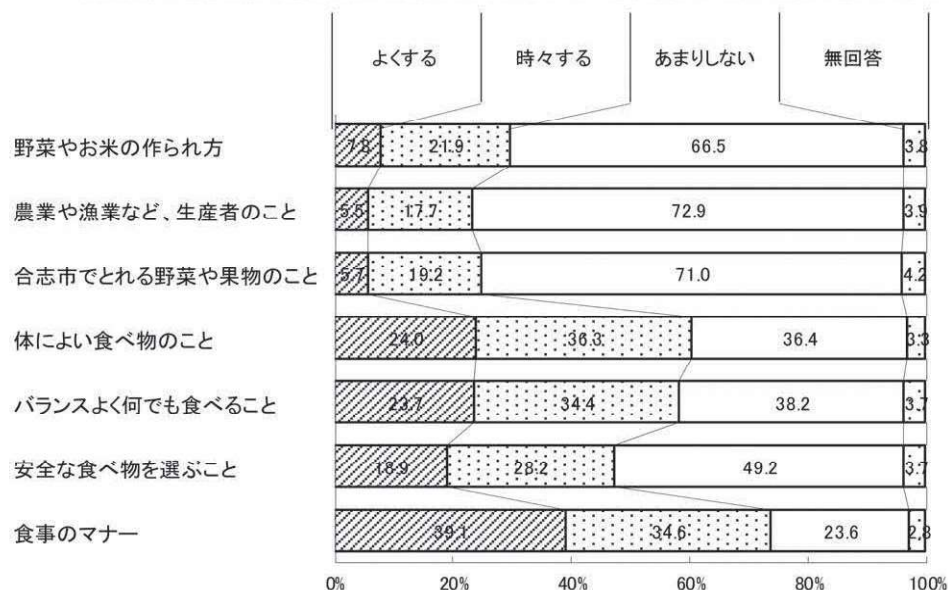
【設問：食材を購入する際にどの程度地産地消を意識していますか】



■（子ども調査）家庭での食育としてよく行われているのは、食事のマナーに関するものが多い

家族と話す頻度で多かった項目は、「食事のマナー」に関するものでした。一方で、野菜やお米がどのように作られるか、また生産者や地元でとれる農作物等に関する話題について話す機会はいずれも 3 割弱と少ない状況です。

【設問：あなたは家族と次のことについてどのくらい話しますか】

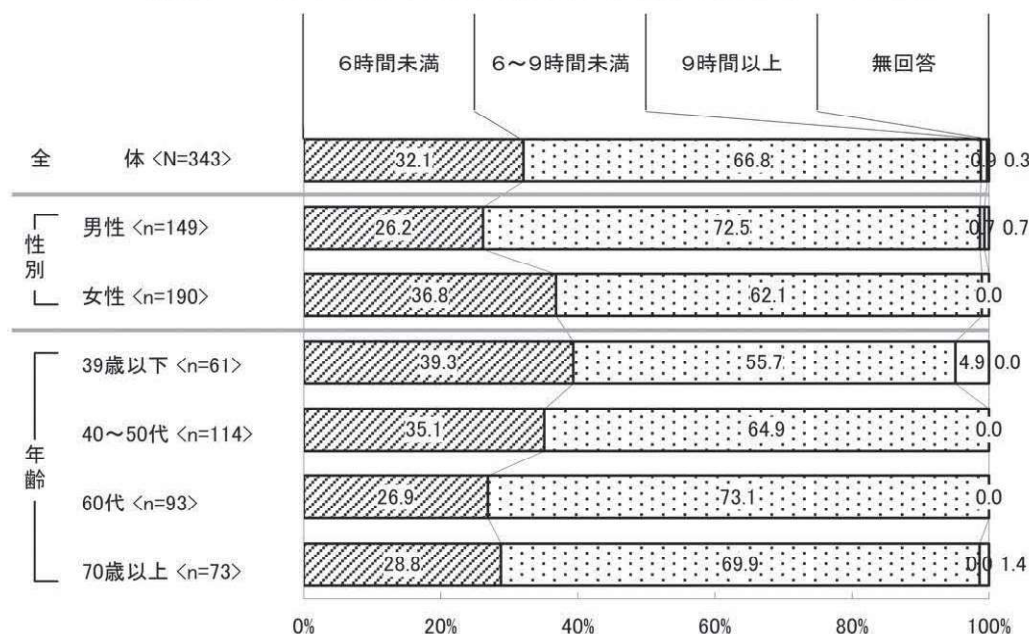


③ 休養・こころの健康に関する状況

■（成人調査）1日の睡眠時間は、6時間未満が約3割

睡眠時間については、昼寝も含めて6時間未満の人は全体で32.1%でした。性別で見ると、6時間未満の割合は、男性26.2%、女性36.8%と、女性の方が多く、男女ともに39歳以下が最も多い結果でした。

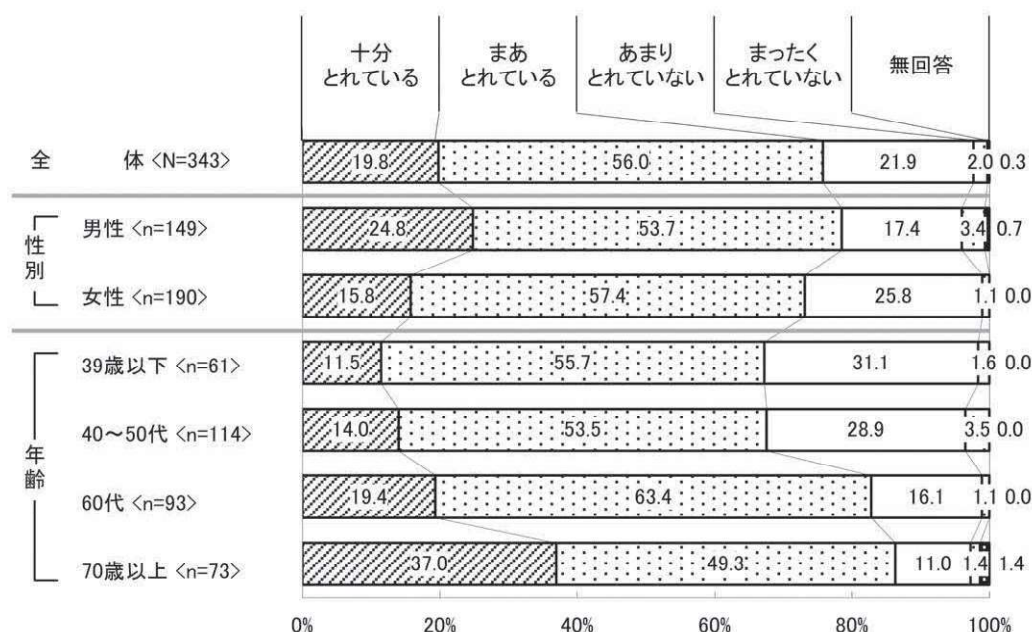
【設問：1日の睡眠時間は昼寝も含めて何時間くらいですか】



■（成人調査）普段の睡眠で休養がとれていると感じている人は、約7割

睡眠で休養が「十分にとれている」「まあまあとれている」と感じている人は、全体で75.8%でしたが、「あまりとれていない」「全くとれていない」と感じている人は23.9%でした。

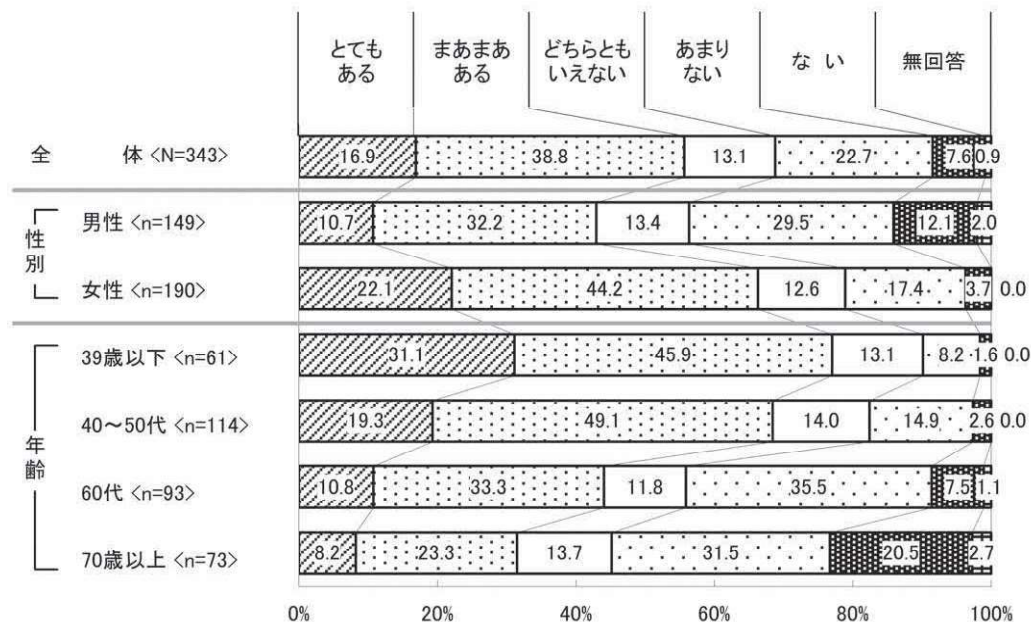
【設問：普段の睡眠で休養が十分に取れていると思いますか】



■（成人調査）この1カ月間に不満、悩み、ストレス等がある割合は、約5割

この1カ月に不満、悩み、ストレス等がある人は、全体で55.7%でした。年代別に見ると、39歳以下で「とてもある」「まあまあある」と答えた人は77%、40～50代でも68.4%と働き盛りの年代に多く見られます。性別で見ると、男性で「とてもある」「まあまあある」と答えた人は42.9%に対し、女性は66.3%と女性の方が多い結果でした。

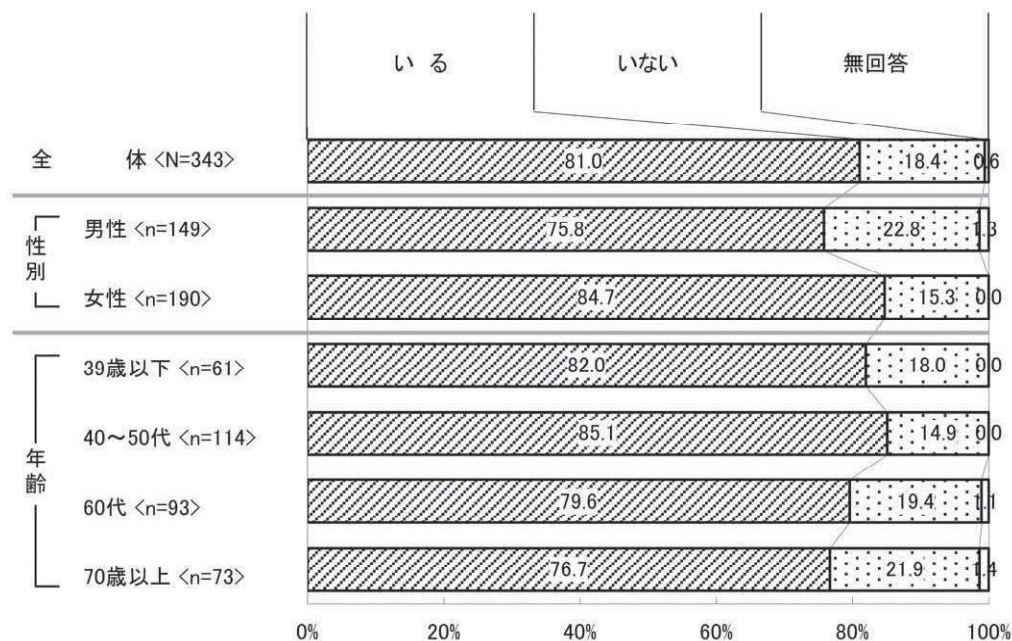
【設問：この1カ月間に不満、悩み、ストレス等ありますか】



■（成人調査）生活の中で気軽に悩みを話したり、相談したりできる人がいる割合は、約8割

生活の中で気軽に悩みを話したり、相談したりできる人がいる人の割合は、全体で81.0%でした。どの年代も約2割の人が気軽な相談相手がない状況です。

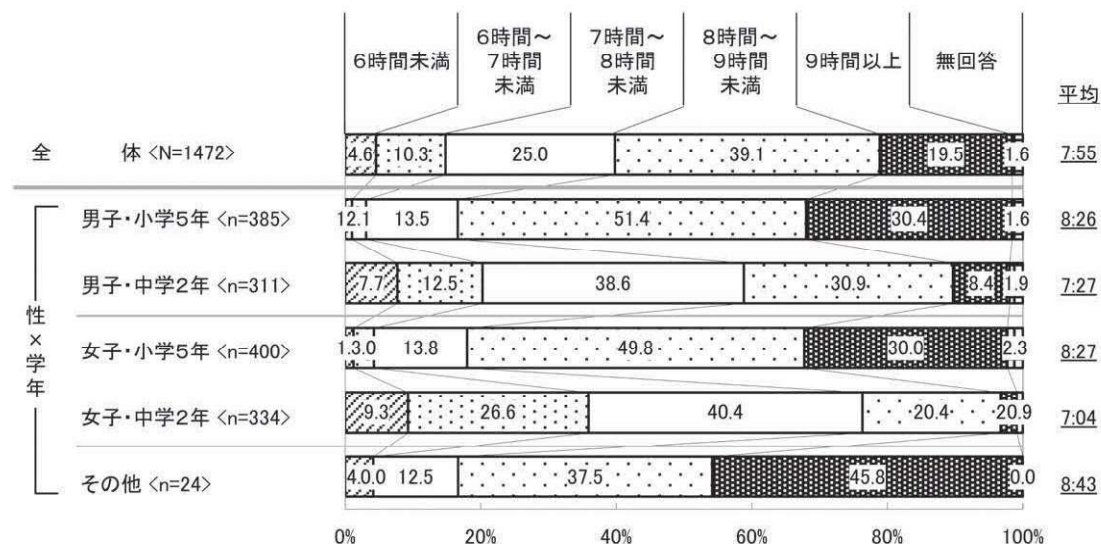
【設問：生活の中で気軽に悩みを話したり、相談したりできる人がいますか】



■（子ども調査）平日の睡眠時間は、小学生が8-9時間、中学生が6-7時間程度

平日の睡眠時間は、小学5年生は8時間～9時間未満が多い傾向にあり、中学2年生では7時間～8時間未満が多い傾向でした。中学生になると睡眠時間が6時間未満の子どもが1割程度いる状況です。

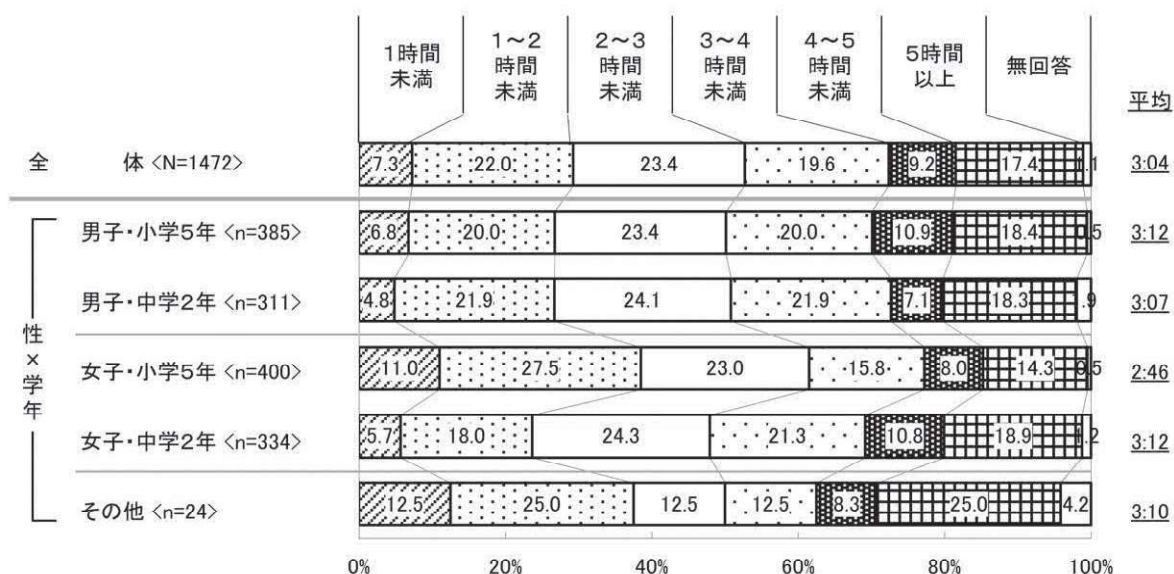
【設問：平日の寝る時間と起きる時間を教えてください】



■（子ども調査）平日のテレビ、パソコン、携帯、ゲーム等の時間は、平均2-3時間

平日にテレビを見たり、パソコン、スマートフォンを使用したり、ゲーム等をする時間は、小学5年生男子と中学2年生男女ともに、2～3時間未満が一番多く、一方で、5時間以上という子どももどの学年・性別も2割弱いる状況です。

【設問：平日テレビを見たり、パソコン・スマートフォン・ゲームを使ったりする時間は合計でどのくらいですか】

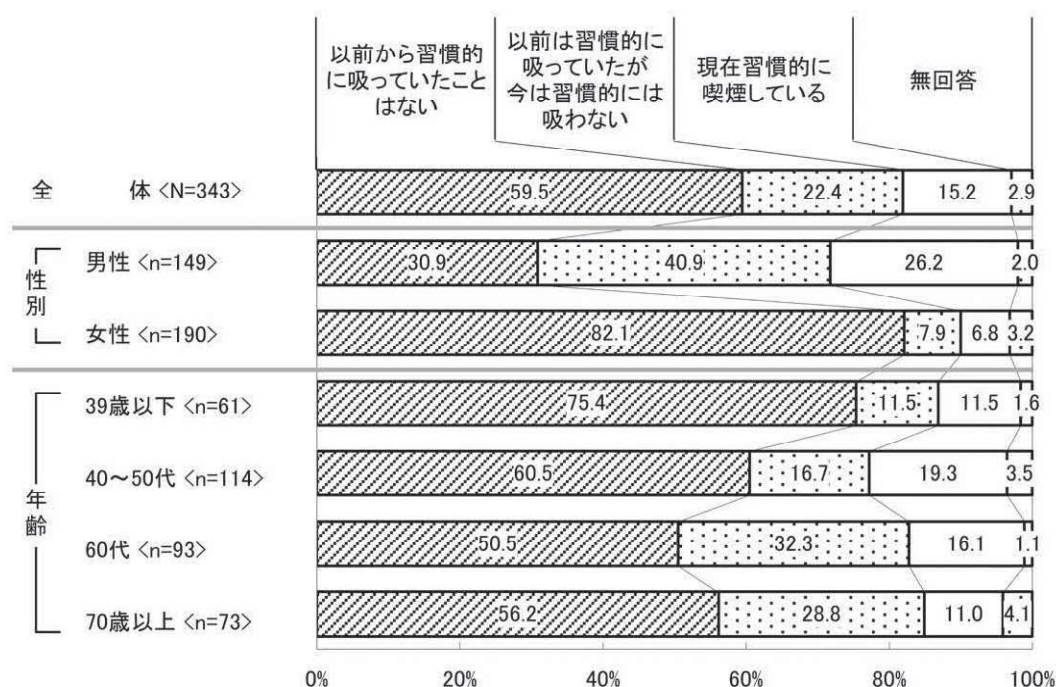


④ たばこ・アルコールに関する状況

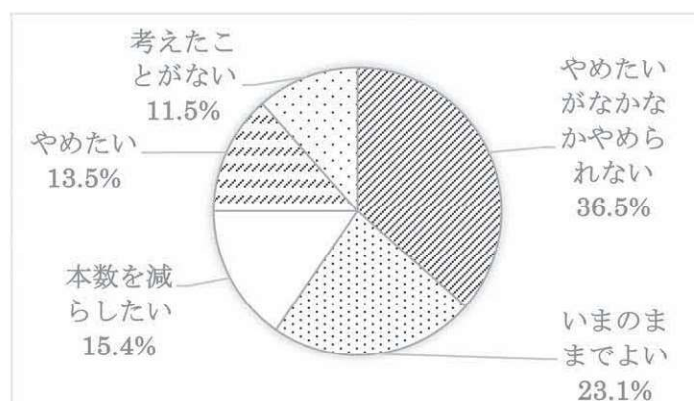
■（成人調査）たばこ（加熱式たばこや電子たばこも含む）を習慣的に吸っている割合は約15%

たばこ（加熱式たばこや電子たばこも含む）を習慣的に吸っている人の割合は、全体で15.2%でした。性別に見ると男性26.2%、女性6.8%であり、男性が多い状況にあります。男性で「以前は習慣的に吸っていたが今は習慣的には吸わない」人の割合が約4割であり、行動変容している傾向がうかがえます。また、現在習慣的に喫煙している人の約6割が、たばこをやめたい、やめたいがなかなかやめられない、本数を減らしたいと感じています。

【設問：あなたはたばこを習慣的に吸っていますか】



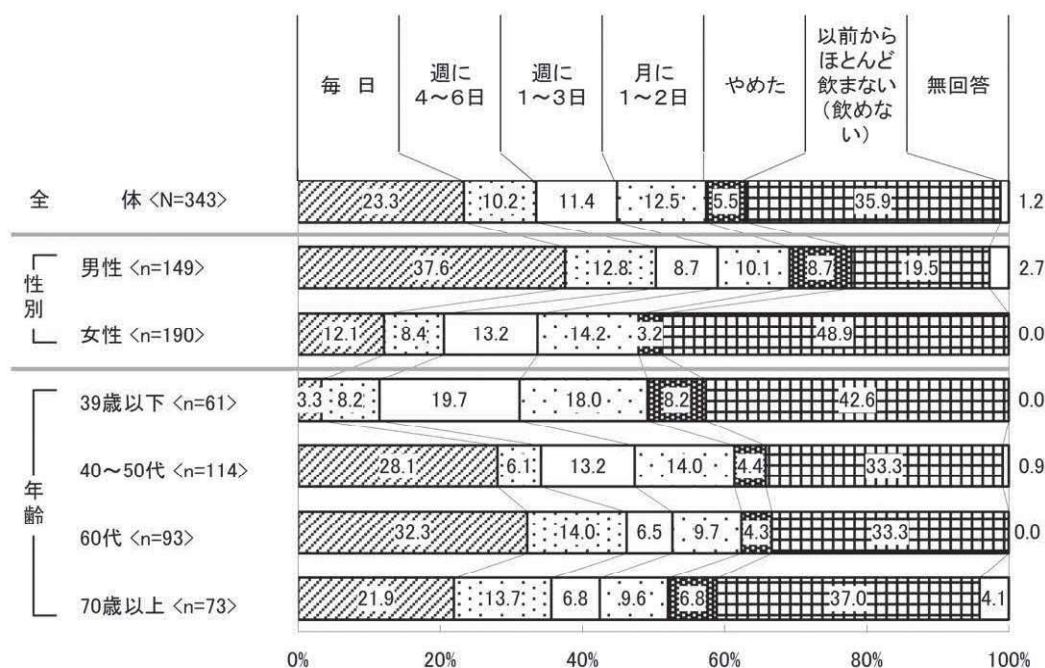
【設問：今後、たばこをやめたい・減らしたいと思いますか（現在習慣的に喫煙してる人対象）】



■（成人調査）毎日お酒を飲む人は、約2割

毎日アルコールを飲む人の割合は、全体で23.3%でした。性別で見ると、男性37.6%、女性12.1%で、年代別で見ると、60代が最も多い結果でした。

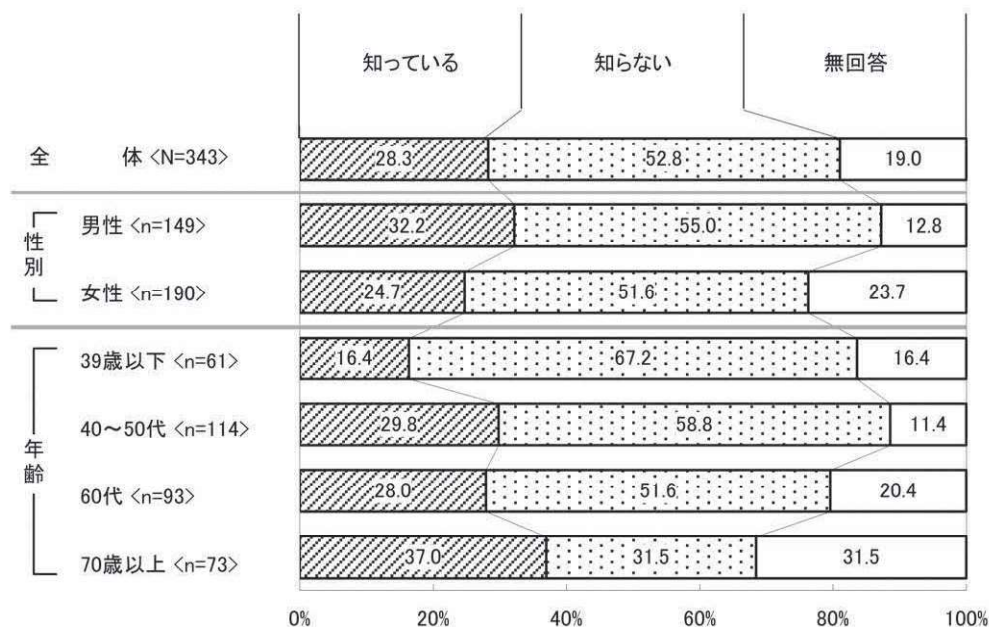
【設問：あなたは平均してどのくらいアルコールを飲みますか】



■（成人調査）生活習慣病のリスクを高める飲酒量を知っている人の割合は、3割弱

生活習慣病のリスクを高める飲酒量を知らない人は、全体で 52.8%でした。年代別で見ると若い世代ほどそのリスクに関し知らない割合が多い状況です。

【設問：生活習慣病のリスクを高める飲酒量を知っていますか】

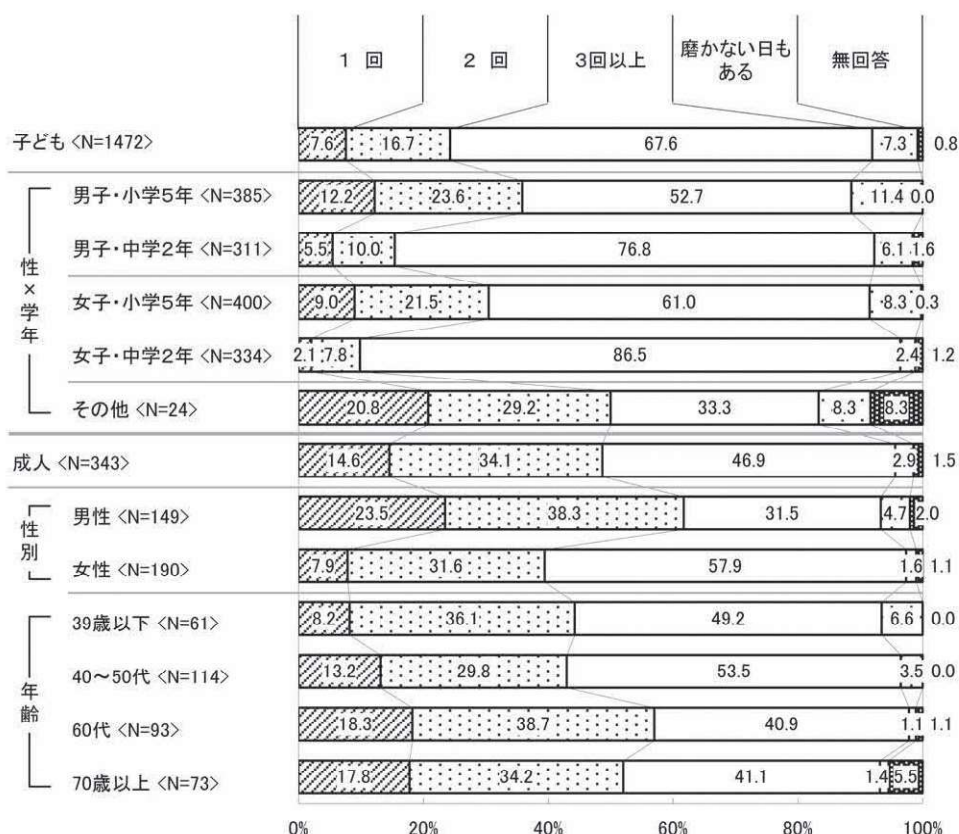


⑤ 歯と口の健康に関する状況

■（子ども・成人調査）1日3回以上歯を磨いている人は、成人が5割弱、子どもは7割弱

1日に歯を3回以上磨く子どもの割合は 67.6%、成人で 46.9%でした。その中でも中学2年生女子は 86.5%と、最も多くなっています。

【設問：1日に何回歯を磨いていますか】

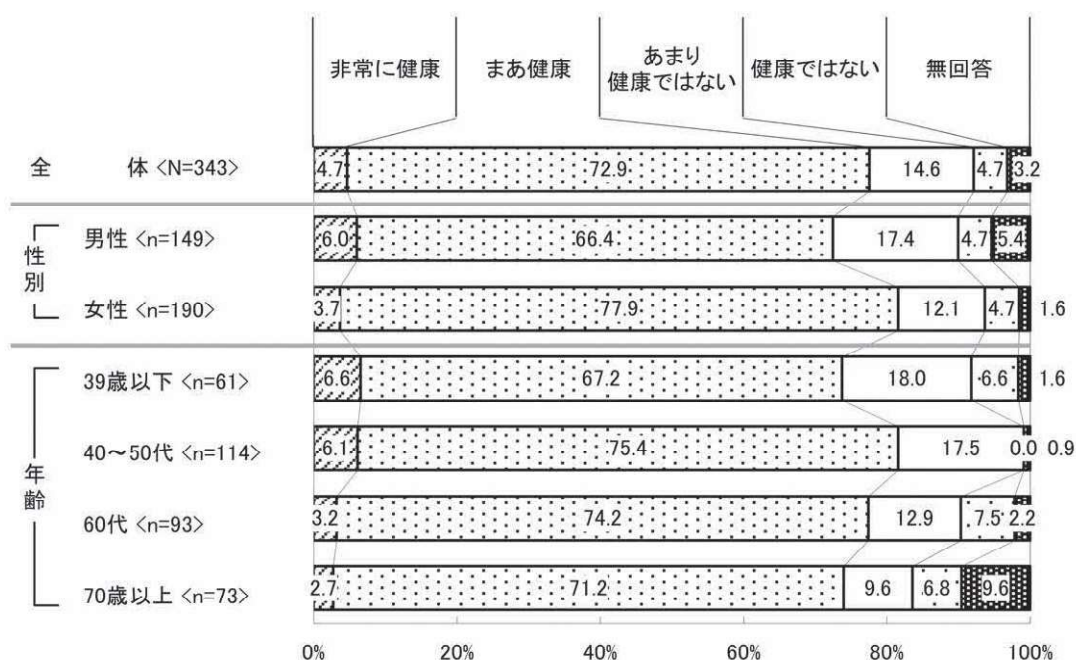


⑥ 健康観・健診（検診）等の受診行動に関する状況

■（成人調査）自分は健康だと思う（主観的健康観）人の割合は、約8割

自分は健康だと感じる主観的健康観は、「非常に健康」「まあ健康」と感じている人の割合は全体で77.6%でした。年代別で見ると39歳以下の年代においては、24.6%の人は「あまり健康ではない」「健康ではない」と感じています。

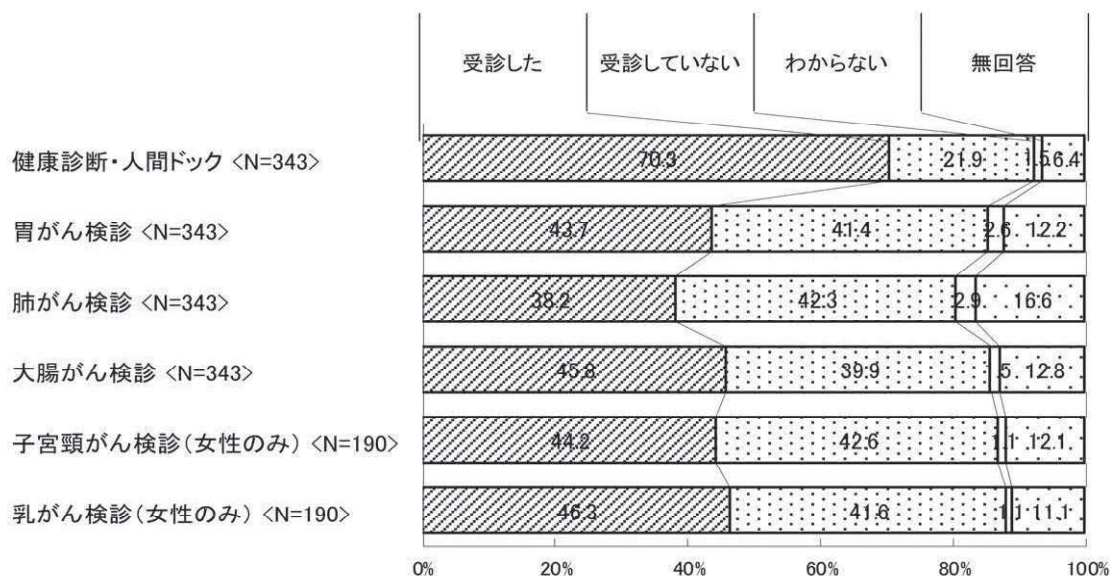
【設問：あなたは普段自分で健康だと思いますか】



■（成人調査）過去１年間に、健康診断や人間ドックを受診した人は、約７割

過去１年間に健康診断や人間ドックを受診している人は70.3%いるのに対し、がん検診はどの検査項目も、50%以下の割合になっています。

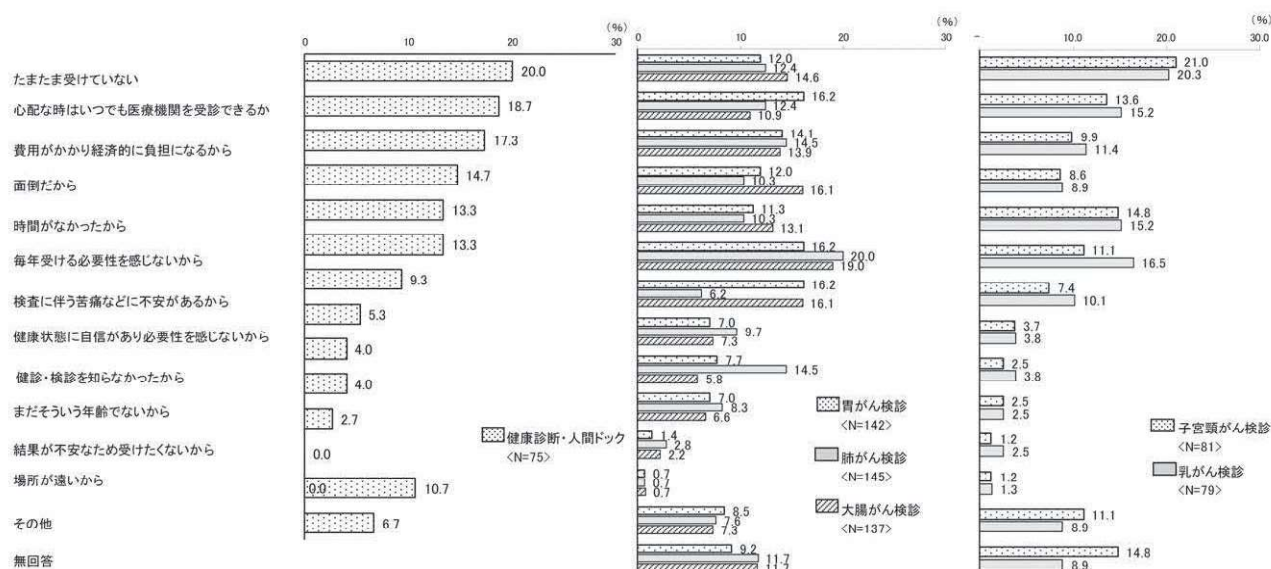
【設問：過去１年間に受診した健康診断や人間ドック、がん検診はどれですか】



■（成人調査）健診・検診の未受診理由としては、たまたま受けていない、毎年受ける必要性を感じないが上位

健康診断・人間ドックを受けていない主な理由は、「たまたま受けていない」「心配な時はいつでも医療機関を受診できるから」が上位でした。胃がん・大腸がん・肺がん検診を受けない主な理由は、「毎年受ける必要性を感じない」「検査に伴う苦痛等に不安がある」が上位です。さらに、肺がん検診に関しては、他のがん検診と比較して、「検診を知らない」という回答が多い傾向にあります。子宮頸がん・乳がん検診を受けない主な理由は、「たまたま受けていない」「時間がなかった」が上位でした。

【設問：健診・検診を受けなかった理由は何ですか（複数回答）】



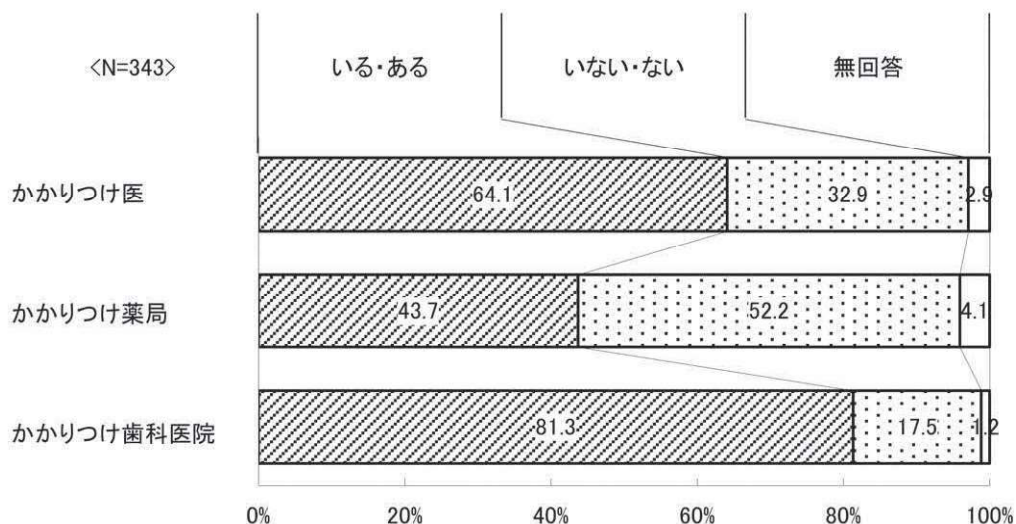
【健診・検診を受けなかった理由の回答割合（複数回答）】

	健康診断人間ドック ＜N=75＞	胃がん検診 ＜N=142＞	肺がん検診 ＜N=145＞	大腸がん検診 ＜N=137＞	子宮頸がん検診 ＜N=81＞	乳がん検診 ＜N=79＞
たまたま受けていない	20.0%	12.0%	12.4%	14.6%	21.0%	20.3%
心配な時はいつでも医療機関を受診できるから	18.7%	16.2%	12.4%	10.9%	13.6%	15.2%
費用がかかり経済的にも負担になるから	17.3%	14.1%	14.5%	13.9%	9.9%	11.4%
面倒だから	14.7%	12.0%	10.3%	16.1%	8.6%	8.9%
時間がなかったから	13.3%	11.3%	10.3%	13.1%	14.8%	15.2%
毎年受ける必要性を感じないから	13.3%	16.2%	20.0%	19.0%	11.1%	16.5%
検査に伴う苦痛などに不安があるから	9.3%	16.2%	6.2%	16.1%	7.4%	10.1%
健康状態に自信があり必要性を感じないから	5.3%	7.0%	9.7%	7.3%	3.7%	3.8%
健診・検診を知らなかったから	4.0%	7.7%	14.5%	5.8%	2.5%	3.8%
まだそういう年齢ではない	4.0%	7.0%	8.3%	6.6%	2.5%	2.5%
結果が不安なため、受けたくないから	2.7%	1.4%	2.8%	2.2%	1.2%	2.5%
場所が遠いから	0.0%	0.7%	0.7%	0.7%	1.2%	1.3%
その他	10.7%	8.5%	7.6%	7.3%	11.1%	8.9%
無回答	6.7%	9.2%	11.7%	11.7%	14.8%	8.9%

■（成人調査）かかりつけ医・歯科医院・薬局がある割合は、医院約6割、歯科約8割、薬局約4割

かかりつけ医がいる人は64.1%、かかりつけ歯科医院がある人は81.3%と半数を超えています。一方で、かかりつけ薬局がある人は43.7%と半数を下回っています。年代別で見ると、39歳以下と40代以上で大きく差があります。

【設問：かかりつけ医、歯科医院、薬局がありますか】



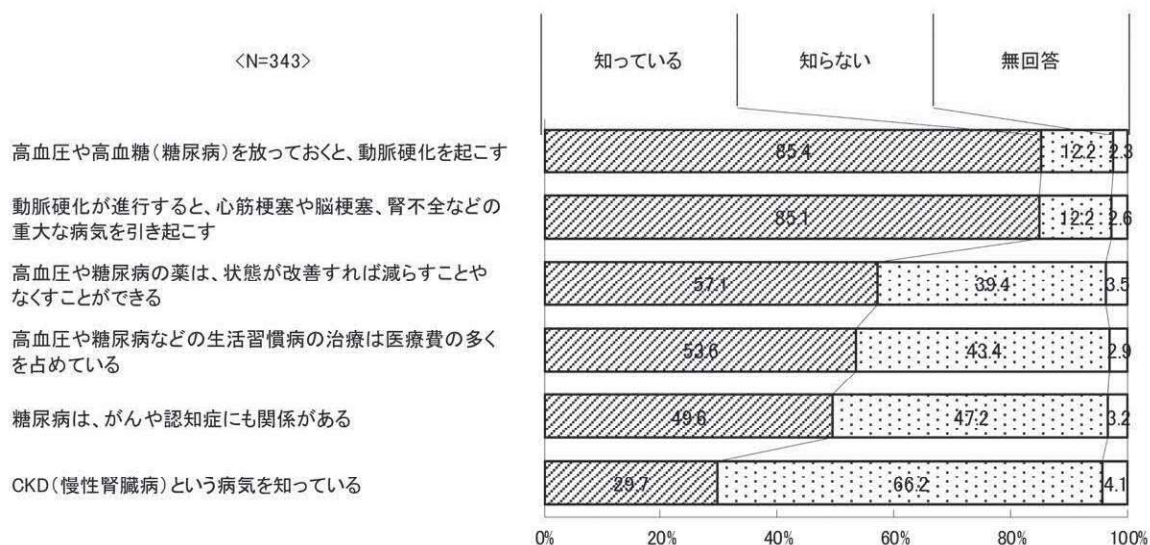
【かかりつけ医、歯科医院、薬局があると回答した者の年代別割合】

	39歳以下	40～50代	60代	70歳以上
かかりつけ医	8.2%	18.7%	19.5%	17.8%
かかりつけ薬局	5.8%	12.5%	12.8%	12.5%
かかりつけ歯科医院	14.6%	25.7%	22.2%	18.4%

■（成人調査）高血圧や糖尿病に関して、脳血管疾患・心疾患以外の病気のリスクの認知度は低い

高血圧や糖尿病に伴うリスクとして、動脈硬化、心筋梗塞、脳梗塞や腎不全等を知っている人は約8割います。一方で、その他の疾患としてがんや認知症との関係性に関する認識は5割弱、CKD（慢性腎臓病）等との関係性に関する認識は7割弱の状況です。年代別に見ると、39歳以下と70代以上が他の年代に比べて病気のリスクに関する認知度が低い傾向にあります。

【設問：高血圧や糖尿病について以下に示すことを知っていますか】



【高血圧や糖尿病について以下に示すことを知っている」と回答した年代別割合】

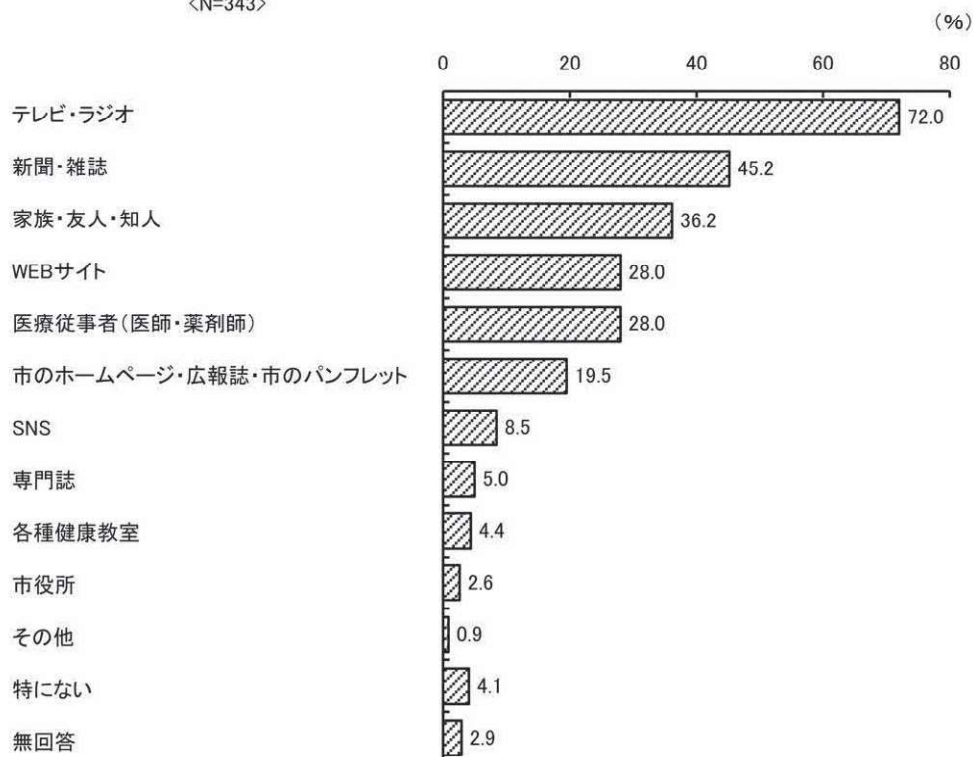
	39歳以下	40～50代	60代	70歳以上
高血圧や高血糖（糖尿病）を放っておくと、動脈硬化を起こす	12.0%	28.3%	25.7%	19.0%
動脈硬化が進行すると、心筋梗塞や脳梗塞、腎不全等の重大な病気を引き起こす	12.2%	29.2%	25.1%	18.1%
高血圧や糖尿病の薬は、状態が改善すれば減らすことやなくすることができる	10.5%	15.5%	16.9%	14.0%
高血圧や糖尿病等の生活習慣病の治療は医療費の多くを占めている	7.9%	13.7%	16.6%	15.2%
糖尿病は、がんや認知症にも関係がある	7.9%	14.0%	15.5%	11.7%
CKD（慢性腎臓病）という病気を知っている	18.0%	27.2%	30.1%	42.5%

■（成人調査）健康に関する情報は、テレビ・ラジオから得ている人が約7割

健康に関する情報源については、テレビ・ラジオが72.0%と最も多く、WEB等のインターネットにより情報を得ている人は28.0%でした。

【設問：健康に関する情報をどこから得ていますか（複数回答）】

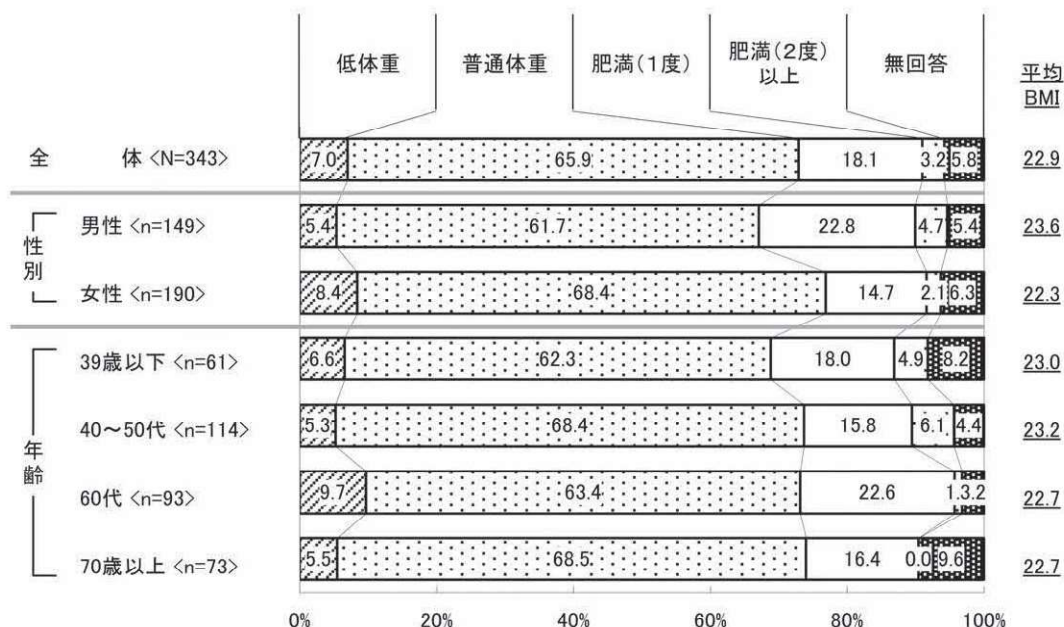
<N=343>



■（成人調査）身長と体重から算出される肥満度（BMI）の状況は、65%が普通体重を維持

身長と体重から算出される肥満度（BMI⁷）の判定結果を見ると、全体で 65.9%の人が普通体重（BMI＝18.5 以上 25 未満）を維持できています。性別で見ると女性の方が普通体重を維持できている割合が多く、年代別で見るとばらつきがあります。

【身長と体重の設問から肥満度（BMI）を算定】

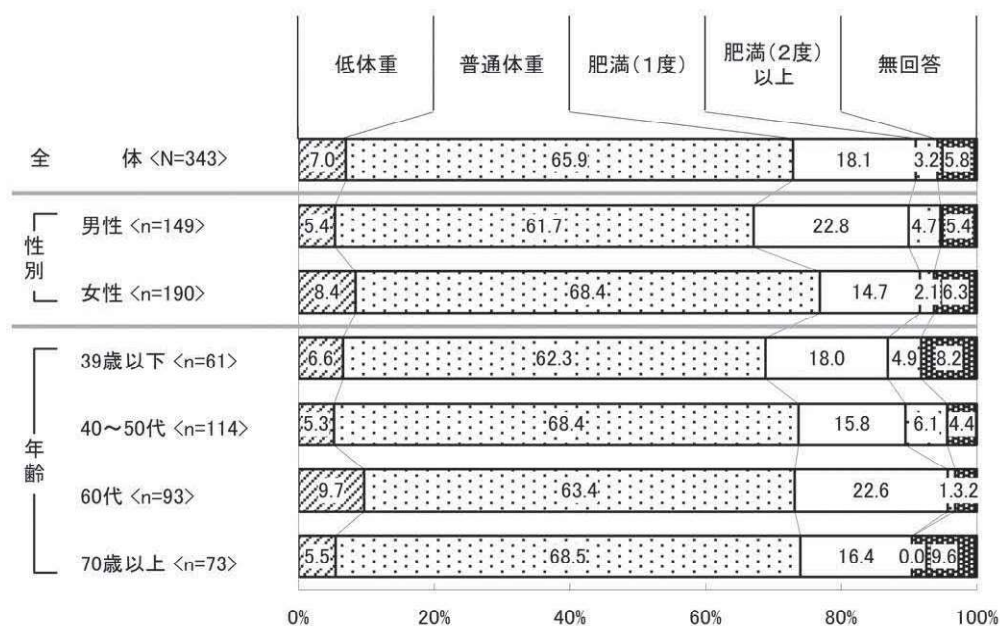


⁷ BMI（Body Mass Index）はボディマス指数と呼ばれ、体重と身長から算出される肥満度を表す体格指数で、 $BMI = \text{体重 kg} \div (\text{身長 m})^2$ で算定されます。

■（成人調査）体重を定期的に測る人ほど、普通体重を維持している割合が多い

体重を測る習慣の有無と肥満度の関係を見ると、体重を「頻繁に測る」、「ときどき測る」習慣がある人が、適正な範囲の普通体重を維持できている傾向があります。

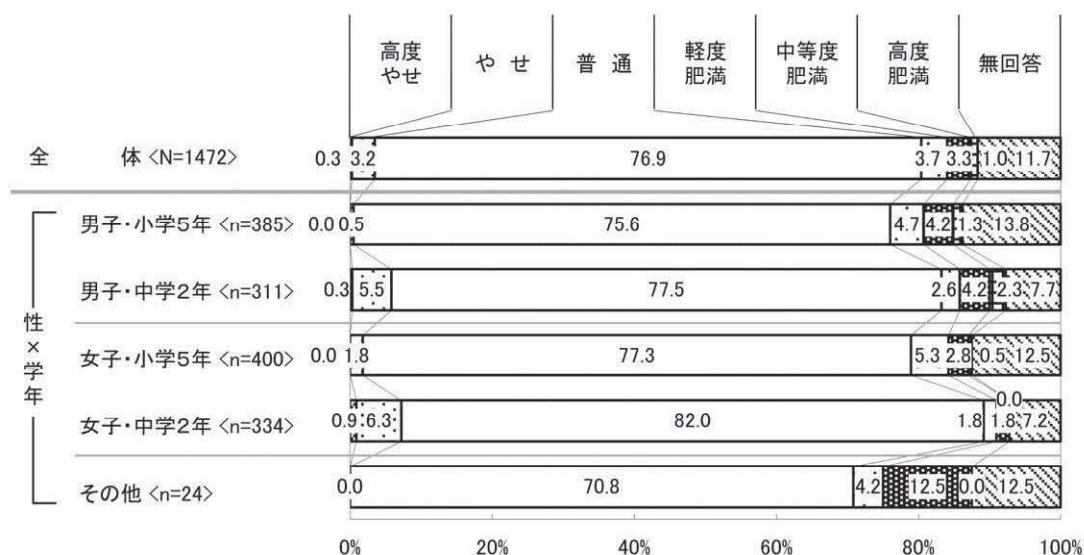
【設問：普段体重を測る習慣がありますか×身長と体重の設問から肥満度（BMI）を算定】



■（子ども調査）身長と体重から算出される肥満度の状況は、8割弱が普通体重を維持

身長と体重から算出される肥満度の判定結果を見ると、全体で 76.9%の子が普通体重を維持できています。軽度肥満～高度肥満の割合の子どもは 1割弱います。

【身長と体重の設問から肥満度を算定】



2. 健康で楽しく過ごせるまちワークショップの結果

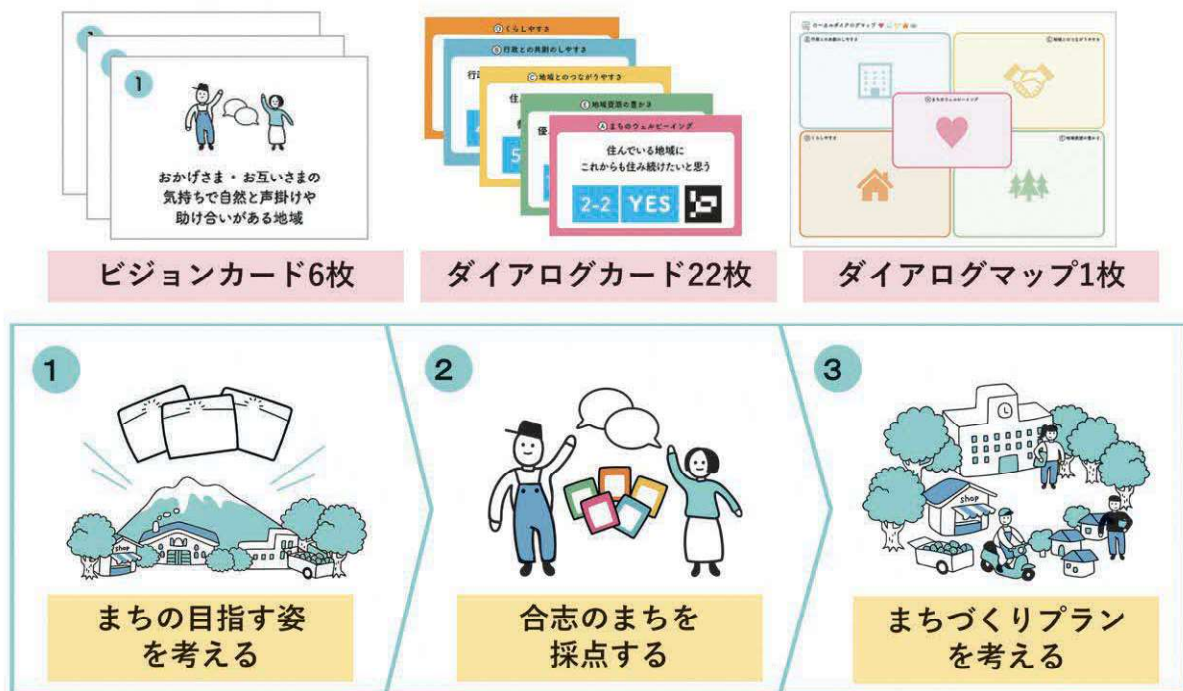
(1) ワークショップの概要

本ワークショップは、「対話で考える“健康で楽しく過ごせるまち”」をテーマに、「第2次合志市健康増進計画・食育推進計画」策定の基礎資料や住民参加によるまちづくりを考える機会とするために実施しました。

図表 57 ワークショップ開催概要

	健康づくりアンケート
参加者	子ども世代グループ：合志市中学生2年生2名、3年生2名、熊本大学4年生2名 大人世代グループ：健康づくり推進員7名
日時	令和2年8月20日（木）13:30～15:00
場所	ルーロ合志（zoomを使いファシリテーターとオンラインでつなぐ形式で実施）
方法	「ローカルダイアログ」 ⁸ というワークツールを用いて実施。対話を通じてまちの現状を可視化し、まちに対する関心と気づきを促すとともに、課題解決に向け、自分たちで取り組めるアクションプランを参加者同士でディスカッションし、住民参加による健康で楽しく過ごせるまちづくりについてアイデア出しを行いました。

図表 58 ローカルダイアログ実施方法



⁸ ローカルダイアログとは、自分たちが住みたいまち、暮らしたいまちの姿を考え、カードを使って対話しながら、まちづくり戦略を作っていくワークショップ。

(2) ワークショップの結果

① 目指す姿を考える

「対話で考える“健康で楽しく過ごせるまち”」をテーマに目指していきたいまちの姿として、6枚のビジョンカードの中から各グループで検討し、目指したい地域の姿を決定しました。

子ども世代チーム	大人世代チーム
<目指す姿> ・おかげさま・お互いさまの気持ちで自然と声掛けや助け合いがある地域を目指したい ・からだも心もいきいきと健康に過ごせる地域を目指したい <理由> ・日頃から気軽に声かける関係性があるとよい（日頃学校の登下校で地域の人に声かけられると嬉しく思うから） ・健康で過ごすことで地域に活気がでるから	<目指す姿> ・おかげさま・お互いさまの気持ちで自然と声掛けや助け合いがある地域を目指したい ・子どもから高齢者までが幸せで豊かな生活が送れる地域を目指したい <理由> ・地域で日頃から会話して助け合うという関係性が、健康で幸せなまちになるために大事だと思う

② 合志のまちを採点（現状と課題の可視化）

目指していきたいまちの姿に対し、現状と課題を把握するために、「まちのウェルビーイング」、「行政との共創のしやすさ」、「地域とのつながりやすさ」、「くらしやすさ」、「地域資源の豊かさ」の5つのカテゴリーの視点に対し、22枚のダイアログカードを用いてYes・Noのジャッジを行いながら、その判断の背景となっている要因についてディスカッションしました。これにより、それぞれの世代の視点から見たまちの現状や課題の共有と可視化を行いました。

＜まちのウェルビーイング ⁹ ＞ 幸せ度、生活の満足度、心がやすらぐ場、定住意欲等の視点	
子ども世代チーム（Yes75%/No25%）	大人世代チーム（Yes100%/No0%）
・地域でつながりがあり、学校も地域と連携する場面がある ・まちの環境としては暮らしやすいと感じる ・イベント等あるけど、参加する年齢層が偏っている、来る人が少ない	・まちに愛着がある人が多いと思う（誇りに思う） ・住む人（人口）も増えてきている ・今後も住み続けたいと思う ・暮らし全般の満足度は高い

⁹ ウェルビーイングとは、身体的・精神的・社会的に良好な状態にあることを意味する概念。

＜行政との共創のしやすさ＞ 首長や市職員の身近さ、行政からの情報提供度、住民と共創による地域課題の取り組み等の視点	
子ども世代チーム（Yes25%/No75%）	大人世代チーム（Yes75%/No25%）
・地震の時等に身近で頼りになると感じた ・市役所はイメージが固くて近寄り難くどんなことをしているか知る機会がない ・月2回ほど回覧板が回ってくるが、読まない人も多いと思う ・暮らしの中で地域の課題に気づいたりするが、これを伝えたりする場がないように思う	・市長、行政は、やりとりする機会もあり身近だと感じている（ただし個人差が大きい） ・行政の活動をもう少し積極的にアピールしてよいと思う ・情報提供はされているけど、やはり十分届いていない人がいると感じることが多い

＜人と地域のつながりやすさ＞ 地域に頼れる人の存在、多世代交流の機会、地域内の要支援者の把握、地域活動への主体的参加と等の視点	
子ども世代チーム（Yes50%/No50%）	大人世代チーム（Yes75%/No25%）
・登下校時のパトロールや、近所との関わりがあり頼れる人はいると思う ・子ども会では高齢者等と交流する機会がある ・支援が必要な人を知る機会がない（自分の身近にいない） ・中学生が地域活動にあまり参加していないし、参加する機会も少ない	・近所付き合いがよく、助け合える関係がある ・以前に比べ、地域活動が減った（子ども・高齢者等と交流する機会が少ない） ・支援が必要な人は一定の把握はできている ・ただし、個々に話を聞くと、介護で苦労している人もいるが、まわりに相談ができていない（相談しにくい）ケースもある

＜くらしやすさ＞ 主観的健康観、健康づくりのための主体的行動（運動・食生活）、高齢者や障害がある人の暮らしやすさ等の視点	
子ども世代チーム（Yes83%/No17%）	大人世代チーム（Yes83%/No17%）
・子ども世代は元気に遊んでいる ・地域で元気に散歩とか運動している人は見るが、ウォーキング等は高齢者しかしていないイメージ（若い人がやっているのはあまり聞かない） ・1人暮らし、1人親の世帯は、食事等偏りがちになると思う	・活動や教室に参加している人は元気だが、それ以外の人は健康でない人が多いのではないと思う ・高齢者は健康づくりに積極的 ・高齢者や障害者の介護をしている立場では、日常生活に不便を感じることもある ・民生委員等地域活動（地域支援者）のなり手がいない＝支援する人材不足

＜地域資源の豊かさ＞ 地域の賑わいや活気、地産地消の状況、地域の自然環境、モノやサービスの利用のしやすさ等の視点で評価	
子ども世代チーム（Yes25%/No75%）	大人世代チーム（Yes50%/No50%）
・新鮮なものは多いと思うが、地元のものを意識して買っているかはわからない ・まちの活気は感じる ・自然は沢山ある	・地域によって過疎化・高齢化しているエリアがあり、買い物等日常生活に不便なエリアもある（若い世代が多いエリアと両極端になっている） ・活性化しているエリアまで行く交通手段がない（特に高齢者は外出する際の制限になる。） ・野菜等地元の物を買っている人が多い ・水害等がない、自然が十分ある

③ まちの目指す姿（ビジョン）とこれら達成するための今後必要な取り組みアイデア

子ども世代チーム

【取り組んでいきたい地域課題】

- ・地域にサポートが必要な人を把握できる手段がない（関わりがない）
- ・若い世代を中心に運動などに取り組めていない（高齢者は頑張っている）

【課題解決に向けたアクション】

- ・地域内の声かけ、挨拶を積極的にする
- ・地域との関わりを持って、地域の人々の生活や困りごとに気づけるようにする
- ・地域の人どうしの交流（中学生との手紙の交換）
- ・家族や、仲間（友達）と一緒に運動するように意識する

大人世代チーム

【取り組んでいきたい地域課題】

- ・地域に頼れる人をもっと増やしていきたい（地域につながりがない人も多い）
- ・地域格差、人による差、世代ごとの差などがあるのでそこを理解し、互いの違いを配慮した上での活動が必要（そのことが結果幸せ度や健康度の差になっている）

【課題解決に向けたアクション】

- ・働き世代、男性の地域活動への関心や参加が少ない（以前のような地域活動が減少）ので、参加できる（しやすい）ような場や機会づくりを検討していく必要がある
- ・行政の広報に加えて、地域活動を行っている団体の人たちが口コミ活動をもっと積極的に行っていく（情報が届く工夫）
- ・みんなが住みやすい地域のために、つながっていない人との関わりを持つ働きかけを行う

④ ワークショップ全体を通じた意見

（子ども世代）

- ・これまで合志のことを考える機会がなかったし、改めて地域のことをあまり知らないこともわかった。
- ・健康のために行動をしている人は、高齢者など一部の人のイメージ。健診の受診率が低いことは知らなかったが、自分たちもこのような情報を共有したり、伝えたりすることをしていければと思う。
- ・これから自分たちが合志に住み続けていくために、地域の現状を知ることが大切だと思った。
- ・友達と合志市について話す機会がなかったけど、今回のワークショップを通して、思っている

ことを共有したり、考えの違いを学んだりする機会になって楽しかった。

- ・ 子ども世代は行政との接点が少ないと思うので、もっとこのような機会も含め増やしていけたらいいと思った。
- ・ 改めて自分たちの目線で考えるきっかけになったり、意見を交換することでいろいろ考えが深まったりすることができた。

(大人世代)

- ・ 健診受診率が県内で低い中で、高齢者は健康を気にするが、若い世代は意識もまだ低いと思うので、声掛けなどの啓発活動を今後も積極的に行っていく必要があると思う。
- ・ 同じ合志のまちを見ても、立場や世代によって意見が違うということを実感した。その違いを活かしていきたい。
- ・ 合志に対して愛着がある人が多いというのは再確認できた。
- ・ 昔に比べて多世代交流の機会が少なくなっている。
- ・ 子どもたちの意見を聞ける貴重な機会にもなり、楽しかった。
- ・ 同じ合志のまちの中でも地域によって、高齢化・過疎化している地域もあるので、地域の違いを踏まえた対応がより必要だと思う。

図表 59 ワークショップ実施風景

